

I.P.S. Doc. No. 3348

Exhibit No.

聯合國最高司令官總司令部法務部及  
國際檢察部

一九四三乃至一九四四年時ニ海軍大將嶋田繁太郎が海軍  
軍令部總長及び海軍大臣ヲアツタ一九四四年二月カ  
一九四四年七月ニテノ期間日本潜水艦イノ号ノ所屬シタ  
日本第八潜水隊ノ印度洋ニ於ケル作戰ニ関シテ

宣誓供述書

一 我、酒井進、正式ニ宣誓シタ上ニ、通リ供述シマス。我、三  
十九歳ヲアリマス。我、逗子ニ住ンテ居リマス。我、東京ノ  
英聯邦進駐軍ニ勤務スル地區事務、監督及通譯者  
ヲアリマス。我、日本帝國海軍ニ將校トシテ十五年余勤  
務シ海軍中佐ノ職ニ居マシタ。我、一九四三年五月カ一九四五  
年二月ニテ第八潜水隊、通信參謀ヲアリマシタ。同時ニ情  
報將校ヲ兼ねテ居マシタ。我、一九三三年ニ海軍兵學校  
ヲ卒業シマシタ。少尉候補生ノ折ニ我、數多ク日本巡洋艦  
ニ勤務シ一九三三年ニハ入雲ニ乘組ンデ歐羅巴へ航行シ  
マシタ。我、一九三七年ニ横須賀ノ海軍通信學校ヲ卒業シ  
マシタ。ソレニテ中國方面勤務トナリマシタ。一九四二年、初ニ我、  
第五潜水隊勤務(通信參謀)ヲ命ゼラレマシタ。一九四二年一月  
第五潜水隊ハ「ベタン」ニ司令部ヲ置キ後島嶼醍醐タカシゲ  
海軍少將ガ司令官ヲアリマシタ。「ベタン」ハ商船基地ヲアリ  
マシタガ、吾等ハ司令部ヲ「ランニード」ホテルニ置キ吾等潜水  
艦ハドック及び港湾設備ヲ利用シマシタ。潜水隊ハ當時六隻  
ノ潜水艦ヲ有シ其任務ハ聯合軍ノ印度ノ補給路ヲ破壞

I.P.S. Doc. No. 3348

に事ありき。一九四三年四月ノ初メニ第五潜水隊ハ「  
トウエー」作戦ニ参加スルタメニ佐世保ニ師團ヲ命ぜりし。  
「ベナン」ニ第五潜水隊ト交代シタノハ海軍少将官ニサシ。麾  
下、第三潜水隊アリシ。一九四三年七月カウ一九四三年五月  
ニ「私」ハ中國ヲ勤務シタ。

ニ一九四三年五月ニ「私」ハ「ベナン」ヲ根拠地トセル第八潜水隊参謀  
将校(通信)ニ任ぜり。フ、潜水隊ハ戦争、始マツ折日  
本ヲ編成サシタ。一九四三年十一月ニ右潜水隊ハ「豪洲」  
「シドニー」ノ海上攻撃ニ参加シタ。一九四三年一月ニ「  
カ」北都ノ「アエゴ」スラ「シ」海上攻撃ニ参加シタ。  
其後第八潜水隊ハ修理ノ為メニ日本ヘ帰リシタ。修理終  
ツカマ第八潜水隊ハ「ベナン」ヘ派遣サレ一九四五年二月ニ解  
隊セルヲ同地ヲ根拠地トシ居タ。其当時「私」ハ  
「ベナン」ノ第十五海軍司令部根拠地ノ先任将校トナリ、  
海軍中佐ニ進級シタ。一九四五年八月廿三日ニ「私」ハ海軍  
少将重積治作(音訳)ノ代理ニテ英國戰艦「ネリン」号  
ニ行キ、海軍大將「ウオーカー」ニ面会。「ベナン」ノ根拠地ヲ英國  
ニ引渡ス取極メラシタ。「ベナン」ハ一九四五年九月三日ニ降  
伏シ英國海兵隊ハ上陸シテ根拠地ヲ接收シタ。  
ニ第八潜水隊ハ「ベナン」ヲ根拠地トシ居タ当時ハ合計十四  
隻ノ潜水艦ヲ持ツテ居タ。ソレ等ノ潜水艦ハ次、通リテ  
アリタ。

イハ、イ一〇、イ二六、イ二七、イ二九、イ三四、イ三七、イ三九、  
イ六五、イ一六六、ロ一〇、ロ一一、ロ一二、ロ一五、



I.P.S. Doc. No. 3348

P. 3

四イ、潜水艦、約一八。噸、長廿八米、八週間、哨戒ニ堪  
ヘ、將枝九名、(下東洋兵船)五名を乗艦ニテ居リシヲ。イ、八  
及ヒイ。港灣及ビ其施設ヲ偵察シ、洋上交通路ヲ哨  
戒スルヲ、水上飛行機(機)ヲ搭載スル設備ヲ持ツ  
居リシヲ。

五、私、洋留期間中、ペナシ、根據地トセ、獨逸潜水艦、  
八隻乃至十隻ヲ海軍中佐、ドヌ、指揮下ニアリシヲ。日獨  
共同作戰、初メ、兩者、協定ヲ行ヒ、獨逸潜水艦、東經  
六十四度線、西ヲ、又日本潜水艦、同線、東ヲ哨戒スル事ニ  
シタ。然レ一九四四年、初メ、ペナシ、港ヲ登リテ行動スル日  
獨逸、潜水艦ニモ事實上責任區域、アリセシメシタ。  
ペナシ、港内、日獨、交歓シシタ。潜水艦、入港中、日本  
人、獨逸潜水艦、招カ、獨逸人、日本潜水艦ニ招待サセ  
タ。時上、潜水艦が、ペナシ、港内、試運轉ヲシタ折ニ  
獨逸人、日本人數名ヲ招キリシ同乗サセシタ。  
然レ作戰行動、際ニ、日本人、決シテ獨逸潜水艦ニ同  
乗シタカ、日本潜水艦ニ試運轉ニモ作戰行動、  
際ニモ決シテ獨逸人、乗リセシメシタ。

(以下次頁)

六才八潜水隊ノ任務ハ英國艦隊ヲ偵察シ且ツ連合國側  
 ノ印度へ補給線ヲ遮断スルニ在リマシタ。獨逸側ハ  
 右補給線ヲ遮断ニ付テハ日本側ニ協力シマシタ。  
 右潜水隊ハ日本ノ才六戰隊ノ指揮下ニ作戰シマシ  
 タ。右戰隊ハ潜水戰隊デアリマシタ。同戰隊ハ最初  
 太平洋上ノトラップヲ根據地トシマシタ。一九四四年ノ前  
 半期中ノ或時期ニ同戰隊ハトラップカラ日本ノ吳ニ  
 移動シマシタ。才六戰隊ノ指揮官ハ高木中將  
 及ビ三戸壽中將モ居リマシタ。  
 七才八潜水隊ニ付タル命令並ニ指令ハ次ノ如キ順序ヲ經  
 テ傳ヘラレマシタ。即ケ命令ハ東京ノ軍令部ヨリ  
 「トラップニ於ケル才六戰隊ニ幸リ、右命令ハ才六  
 戰隊ヨリ才八潜水隊ニ移牒サレマシタ。然シ指令ハ  
 東京ノ軍令部カラ直接才八潜水隊ヘ来マシタ。ト  
 云フ、ハ才六戰隊ハ印度洋ニ於ケル確實ナル狀況ヲ  
 知悉ス。又才八潜水隊ノ或將校達ト東京ノ軍  
 令部間ニ直接通信ガ持續サレテ居タカラデアリス。  
 ハ才六戰隊ノ才八潜水隊及ビ東京ノ軍令部間通信  
 信ハ急ヲ要スル通報ハ無電ニ依リ、書類ハ空輸  
 ト致シマシタ。才八潜水隊カラ傳送サレタ情報ハ才六  
 戰隊ヘハ東京ノ軍令部ヘ一寫一通ヲ添ヘテ送ラレ  
 マシタ。此情報ハ通例三種アリマシタ。即チ(一)第八  
 潜水隊ノ潜水艦活動(二)此等潜水艦ニ依ル撃沈及ビ  
 (三)偵察報告デアリマシタ。



I.P.S. Doc. No. 3348

九、參謀將校(通信)トシテ哨戒前潜水艦乗員ニ指  
令ヲ與ヘルニ付テ、私、任務ハ潜水艦、通信士官  
並ニ其、通信士ニ對シ、彼等、無電機ニ使用ス可  
周波數、ヘンシヨリ、我々、放送ニ波長ヲ調整スベキ  
時刻、ヘンシ、ヘ、應答、時刻(通例夜間)及ビ使  
用ス可キ信号ハ、同シ指令ヲ與ヘルコトデアリマシタ。  
潜水艦、敵船ヲ沈ムル毎ニ通報ヲ寄コシ、撃沈、  
時刻、位置、其、船、單獨ニシテ、或、護衛、シテ居  
リシヤ、又、其、船、如何ナル進路ヲ取り居リシヤ等ヲ知  
ラセ、マシタ。連合國側船舶、撃沈、同ニル通報  
ニ於テ、我々、使フタ暗号ハ、五字暗号デアリマシタ。オ一  
字、時刻、オ二字、緯度第三字、經度第四字、  
單独、船カ若クハ護衛、シタル船、アル、オ五字、  
進路ヲ表示シマシタ。此通報、ヘンシ、ガ潜水艦向  
ク、夜間放送ニ於テ、同通報、受領ヲ証認スルマデ  
ハ、毎夜三回急遽ニ潜水艦ニ依ツテ、繰返シマシタ。  
潜水艦ガ歸還シタ時、私、任務ハ、潜水艦ガ入港  
ニ接橋ニ横付ケタルヤ否ヤ、ソレニ依リ、込ミ無電  
室ニ降リ、行ツテ通信日誌ヲ通信設備ヲ參考ニ  
通信士達ヲ査檢スルコトデアリマシタ。オハ潜水隊、公  
文書、總テ、一九四五年二月同隊解散、際、空輸東京  
ヘ寄リ行カシマシタ。

十、私が第八潜水隊に所属して平間二同隊ノ潜水艦ニリ敷き沈せし  
 聯合國船舶ノ数ハ凡ソ四十隻アリマス。コノ總計ハ「ペン」ヲ根  
 據地トシテ「ド」ヲ潜水艦ニリ敷き沈せし船舶ノ總數ヨリモ稍  
 大キイモノアリマス。各潜水艦ノ哨戒及ビ夫々ノ指揮官、各潜  
 水艦ニリ敷き沈せし聯合國船舶及ビソノ他ノ作戰ノ細目ハ  
 聯合軍將校諸氏ノ要求ニ應ジ私が調査シテ「アリス」カソノ  
 將校諸氏ノ中ニハ一九四六年四月九、十、十一、十二、十三及十五ヨリ  
 「コレイ」ニ「カボール」ニ於テ私が訪問シテ「アタリカ」陸軍「ワグニ  
 ン」F.「カ」三五中尉及ビ一九四六年六月十九日東京ニ於テ私  
 「ヲ訪問シテ、英國海軍軍務部長兵務備隊ノ「W.ソールター」  
 大尉カ居リシヲ、兩將校共聯合國最高司令官給付司令部  
 法務部ノ部長「アリス」ハ「コ」兩人ニ本供述書中ノ事  
 項及ビ「コレ」水艦「ハ」号ニ因スル以下ノ報告ヲ述ベテ「アリス」  
 内野大佐指揮下ノ帝國海軍潜水艦「ハ」号ハ日本ヨリ「ド」ニ  
 航海シテ一九四三年十二月「コレ」カ「ボール」ヘ歸着シ「コレ」カ「ボール」  
 航海シテ四人ノ「ド」人即チ「コレ」カ「ボール」ト「コレ」カ「ボール」ト三人ノ技術者  
 カ乗艦シ居リシヲ。一九四四年三月「コレ」カ「ボール」ハ有泉哲之助  
 「コレ」カ「ボール」中佐ノ指揮下ニ置カレシヲ。同艦ハ一九四四年三月ヨリ  
 五月迄「コレ」カ「ボール」南方及「コレ」カ「ボール」群島ノ附近ヲ哨戒シ一隻  
 ノ船ヲ敷き沈シシヲ。「コレ」カ「ボール」ニ三週間破損シテ修理シテ六月  
 初旬「コレ」カ「ボール」ハ海上自走哨戒致シシヲ。「コレ」カ「ボール」度ノ  
 哨戒ハ第一回ト同シ水域ヲ二隻ノ船ヲ敷き沈シシヲ。一九四四年  
 九月「コレ」カ「ボール」ハ有泉中佐ノ指揮下ニ日本ヘ歸航シシヲ。性格  
 ニ就テ云ハ内野大佐ハ極多シ諸君「コレ」カ「ボール」人ナシヲ。



1.P.S. Dec. 110, 3348

127

ソレニ反シテ有泉中佐ハ非常ニ盛々シイ戦闘精神ノ横溢シテ  
サテ人ヲシテ彼ハ亦極ニ勤勉ナ聰明ナ人アリコシテ。彼ハ  
戦闘ヲ欲シテ閃トシ陸上勤務ヲ非常ニイヤカテ居リシヲ  
私ハ戦前 有泉中佐ハ海軍々令部付参謀長トシテハワイ  
諸島攻勢ニ使用ナルベキ潜水艦トソノ乗組員選抜ノ任ニ  
ソレヲ任ズルコトヲ聞キコシテ。彼ハ口ヲカトイハバ子供ッポイ顔付  
ラシキヲ知ルカ海軍ノ友人達ノ間ニ於ケル彼ノ綽名ハ「ギャング  
アリ」コシテ。

私ハ先ニイハヌカ一九四四年ノ三月カラ五月ニカケテノ哨戒艦一  
隻ヲ襲撃シテ一九四四年六月乃至八月ノ哨戒艦ハ二隻ヲ沈メタ  
トイフ事ヲ申シコシテ私ハコレヲノ聯合國船舶ハ沈メラセタコト  
ヲソノ當時知事居リシニカソレヲノ名前ハソノ頃ハ分リセシテ  
前述ノ「マティ」中尉ニヨリ訊問ノ際私ハ最初ソレヲ撃沈サ  
シテ聯合國船舶ノ名前ハ知リセシテテ地國ヤ諸船舶  
沈没ノ位置状況日時第八潜水艦隊所屬潜水艦ノ哨戒  
水域時期期間各潜水艦ノ各哨戒間中ニ撃沈セラセタ船舶  
船ノ推定隻数等々を照シテ又ソレニカポールニ居タ日本海軍ノ  
人々ノ助ケヲモ藉リテ我々ハ專ラセテ各種聯合國船舶ニ対  
シテ責任アリト思ハル潜水艦ヲ判定シ得タカラス  
コノ稱ナ調査ト協議ニ基キテ私ハイハヌノ三月カラ五月ニカケテ  
ノ哨戒艦三隻ヲ沈メタ船舶ハ「マティ」アリト確信致シヌ  
私ハ有泉中佐ハ一隻ノ艦ヲ襲撃シソノ後テ同艦ノ救命艇ニ  
名「ヨロバ」婦人ハイルノヲ見カケタト語リタルノヲ聞イタ覺  
エカアリヌ。イハヌノヨロバ襲撃カレタ諸船舶識別ノ同稱ナカ

P. 8.

法ヨリテイハ号ノ六月ヨリ八月迄ノ間我ノ際ニ殺シ次リタニ  
 隻ノ中ノ方ハ汽船ヲシヤンニコレレ アアワコトヲ確信致シ居リ  
 又、同船ノ沈没日(一九四四年七月二日)ニハイハ号ハコレレ  
 カモ沈サレタリノ水域ヲ行動シテ唯一ノ日本潜水艦アリタ  
 ナス一九四四年八月イハ号ハニ三人ノ俘虜ヲフベシハ連レ  
 歸リマシタノ俘虜ハ達ノ國籍ハ思ヒ出セセン、私カ第八潜水  
 水隊ニ所属シテ先間同隊ノ潜水艦ニヨリフベシニ連シ来ラ  
 シ俘虜ノ総數ハ大体五、六人アリコレク

十一、撃沈サレタ船ヲ連行サレタ俘虜カ達ノ訊問法アリヌカ  
 彼等ハ捕ヘラレ後先テ潜水艦ノ艦上テ訊問ヲ受ケンタ、イ  
 ナ号ノ場合ニ於テハ俘虜カ達ハ當時參謀長アリタ、有泉  
 中佐ノ前ニ連シテ来ラシメシタ、彼ハ海面ノ状況ニ関心ヲ持テ自  
 ラコレ等ノ俘虜ノ訊問ヲ行ヒシタ、イハ号ニ依リテ連行サレタ  
 俘虜カノ場合ニハ 有泉中佐ハコレ等ノモラ海上ニ於テ訊  
 問シノ際入テシタ情報ヲ直ニ用ヒマシタ、コノ二ノ場合  
 何レモ 俘虜カヨリ入テシタ情報ハ各潜水艦ノ哨海ヨリ歸  
 還後潜水艦指揮官ニ依リテ參謀會議ニ提出サレシタ、  
 和ハ潜水艦情報特設アリシタカ第八潜水隊ノ俘虜カニ関  
 スルニ二ノ場合ニ就テハ訊問ハ行ヒシン、ソレハ有泉  
 中佐カ凡テ行フタカラナス、コレ等ノ俘虜カハ大体ニ於テ高  
 級船員アリシタカラ有泉中佐ハ彼等ノ情報ヲ自己ノ手ニ  
 充分ニ利用シタヤウアリシタ、有泉中佐ハ訊問調書ヲ作  
 成シ航空便ヲ以テ海軍省ニ送付シシタ、彼ハ多クノ友人



p.9.

ヲソコニ持テ居リシヲカフシレ位ニトハ極メテ容易ニ出来  
ルノデシタ。然レ私ハ有泉中佐ハ自分ノ蒐集シテ情報  
ヲ何一ツ私ニ知ラセヨウトシカフタテ彼ニ對シテ大ニ憤慨シ  
マシタ。

伊達カ佐將ニ就イテハ私ハ「ベナン」ニ居ル間、何モ聞キマセ  
ンデシタ。私ハ「ゲティ」中尉カラ汽船「ワシサウ」及ビ汽船  
「ワシヤン」ニコレノ生存者ノ陳述ヲ讀ミ聞カサレルモ「ベナン」  
棉ナ罪科ニ就イテハ全然知りマセンデシタ。私ハコレニ就イテ  
知ラカフタ「ゲティ」ハ「ワシサウ」私ハ「ベナン」ニ於テソレ等ノ  
潜水艦ノ將校ヤ乗組員達トアリ交遊カ「ワシサウ」カラ「ア  
リマセウ」私ハ參謀將校アリマシタカラ當時陸上ニアリシ  
タ。私ハ「ワシサウ」在任ノ中國人ノ間ニ友人ヲ持ツテ居リシ  
勤務外ノ時間ノ大部分ハ「ベナン」ノ許テ過シテ居リマシタ。  
コレニ反シテ潜水艦ノ乗組員達ハ町ノ人達ニ知己ハ極メテ  
少ク「ベナン」ノ日本料理店ヤ日本人ノ「慰安婦」ノ許テ  
時ヲ過シテ居リシタ。私モ「ベナン」ノ日本人料理店ヲ訪レタコトカアリ  
マス。カ「ベナン」ノ宴會ノ場合ニ限ラシテ居リシタ。私ハ單  
独テソコへ行タコトハアリマセン。ソコニ「ゲティ」私ハ「ベナン」ヤウナ思ヘイ  
行為ニ就イテハ「ベナン」機會ヲ持タカフタセウ。今猶私  
ニハ「ベナン」ヤウナ事カ「ワシサウ」殆ト信ジラレマセン。

十二、潜水艦ニ對スル慘虐行為ニ因シテノ連合國政府カ  
ラノ抗議ニ就テハ直接東京海軍省カラ二隻ノ中立國  
船ノ重沈ニ関聯シ「ワシサウ」思ヘル第八潜水隊ノ潜水

I.R.S. Dec. 110. 3348

艦二就二三度報告ノ要求カアリシタ。然レ連合國  
側ノ抗議ノ眼目タル米英海軍船ノ沈没ニ関スル調査  
ノ要求ハ第八潜水隊ニハリスルベシタ。

主。私ハ幾ノ月モ第八潜水隊ニ所属シ居リシタノ間  
同隊ノ多クノ作戰ニ從ヒシタノ故私ハ爲シテ報告ハ  
正確トハ言ヘモ之カ私ノ記憶ヲ居ル限リノモノハアリタ

酒井進 (署名)

日本、東京

私、酒井進ハ正式ニ宣誓シタル上、五頁ヨリ成ル  
前記陳述ヲ讀ミ且ツ充分ニ理解セルコト並ニ本  
陳述ハ私ノ知リ且ツ信スル限リニ眞實ニシテ正確ナル  
ヲ申述ス

酒井進 (署名)

一九四八年一月四日 余ノ面前ニ署名  
宣誓セリ

英國海軍義勇兵予備隊

海軍大尉 W. フォーラー